

第4学年3組 学級活動(1)指導案

1. 日時・場所 令和2年11月12日(木) 5校時(13時40分～14時25分) 4年3組教室

2. 議題「クラスみんなの心を一つにする遊びをしよう」

3. 議題について

(1)児童の実態

臨時休校期間があったため、全員がそろってのスタートは6月からだった。学級目標は「みんな ほっ

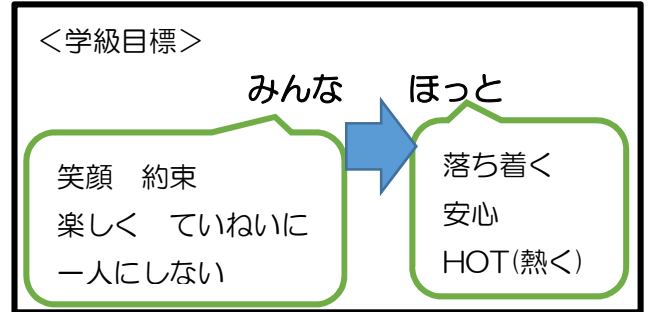
と」に決まった。一斉登校開始後の話し合い活動で、これからの学校生活に対する個人の思いを児童と担任で話し合いながら決めた。みんなで安心して落ち着いて過ごしたい気持ちが強く「みんな ほっと」となった。学校生活が再開してからは、例年と異なる状況が多かったため、しばらくは緊張した様子が見られた。一部の緊張が全体に広がり不安を感じやすかったり、友達と自信をもってかかわることが難しかったりする様子がみられた。そこでクラスでは安心して活動できることを前提に、自分から行動するきっかけやかかわりをもてる場面を設定してきた。その結果、係活動やグループ活動などで友達の輪を広げ、自信をもってかかわる姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし、授業では正解に確信がもてないと挙手しなかったり、いつも同じ児童が発言したりして自分から進んで行動しない自信の無さが感じられた。だからこそ自分たちで課題を見出し、解決策や改善策を進んで話し合っただけで行動に移していく経験を学級活動の時間に積んでいくことで、「自分たちでできた」「やってよかった」と自信をつけてやりがいを感じてほしいと考える。

学級会の第1回目の議題は「笑顔と友達を増やして楽しむ」について考えた。話し合いの結果、どろけいを実践した。振り返りでは「楽しかった」といった声が多かったが、新しい友達を増やせるような活動が足りなかったという反省が出た。めあての要素全てを達成するような活動を決めていくことが大切だと次時への課題が明確になった。

第2回目の議題は「友達の夏休みのことを知り、もう一步！！暑さをのりきる」について、学級会を行った。話し合いの結果、なんでもバスケットに決まった。「何を」「どのように」するか、柱を明確にして話し合うことで、多くの児童が納得して合意形成を図ることができた。めあてに沿った個人の考えが多く、しぼりきれず時間内に終わらなかった。2回に分けて話し合うことになったが、その分議題により近づける内容を考えることができた。実践後の振り返りでは、「自分たちが決めた遊びでとても楽しかった。」とめあても達成したことを強く実感し、満足した様子だった。

第3回目の議題は、「笑顔と友達を増やす」にし、学級会を行った。話し合いの結果、「ジェスチャーで自己紹介をする」活動に決まった。既存の遊びではない、新しい遊びを組み合わせる展開になったため話し合いも難しく、行き詰る場面が何度もあった。決めることが多く少し教師からの支援もあったが、実践後の振り返りでは、「友達の意外な一面を知ることができた」と納得する声が多数出た。また、「もう少し時間をとってクラスの中であまり話してない友達ともっと話したい。」といった声もでた。

3つの学級会で話し合いをして、合意形成を図る活動は経験をしてきた。その一方、時間内に決めきるこ



との経験はまだ乏しく、時間内に決めきるのを1つのめあてとして今回の学級会に取り組んでほしい。

(2)議題選定の理由

後期に入り、新しい学校生活や友達とのかかわりも少しずつ慣れてきた。楽しみながら頑張る気持ちを大切にしながら行動する児童が多くなってきた。友達に対して優しくかかわることができる児童もいて、協力してグループ活動をしたり、友達同士で反応を大切にしながら話し合い活動をしたりする姿も見られる。全体で決まったことや今の自分ができることを行動に移す児童が多い。学級活動に対して意欲的に取り組む姿は見られるが、今まで話し合い活動を行ってきて自分の考えはあるものの全体の前で話すことに抵抗があったり、積極的になれなかったりする児童がいる。また、自分の考えが浅いと思われる児童もいる。また、決まったことでいいというような様子がうかがえる児童もいる。これから高学年になり、委員会活動などの場面では子ども同士で考え、判断して人のために進んで行動する力がより求められる。10月末に行われた王中小オリンピックを経て、自分たちでめあてを決めて取り組み、クラスにまとまりができはじめている。振り返りからは、協力することの楽しさや面白さ、充実感が見られた。そこで今回は、「王中小オリンピックのように、みんなでまた1つになりたい」という声をもとに「クラスみんなで心を1つにする遊びをしよう」を議題に選定した。

4. 評価規準

よりよい生活を築いていくための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより よくしようとする態度
学級の生活上の問題に関心をもち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。

5. ねらいにせまるための手立て

<事前>

主体的に考えたい手立て（「クラス全員が取り組む、必要感をもって考える」という議題の選定）

「心を一つにする」という議題を達成するためにクラス全体で出した取組は児童全員が挑戦する。この流れをつくることで自分自身にも直接関係がある内容となるためクラス全体のことでもあるが、自分事としてとらえることにつながる。自分事として考えることで「やりたい」「もっと〇〇したい」「それなら自分でもできそう」といった考えをもつことにつながる。みんなの心を一つにするための意見や発想、よりよい考えが児童全員の力で合意形成を図りながらつくることができると考える。

自分の考えをもつ、司会グループの準備の手立て（学級会プリントに考えを前もって記入しておく。）

本時に入る前に、議題について考えたことを事前にプリントに記入しておく。事前に考える時間をとることで見通しをもてたり、自分の中で考えを整理できたりして、根拠のある議題に合った考えをもつ

て話し合い活動に参加できる。また、事前に記入しておくことで司会グループが話し合いの方向性や見通し、話し合いの柱を事前に考えて明確にすることができ、話し合いに深まりが出ると考える。

自分の考えを伝えるための手立て（話型・キーワードの提示）

考えはあっても自分の言葉で相手に伝わるか不安だったり、どう言えばいいか決まらず考えを発表できなかつたりして、発言するために一歩踏み出しきれない児童がいる。そこで友達の考えに質問や賛成を出したり、友達の考えをふまえて新しい考えを出す話型や、「理由」「やり方」「こうすれば」等のキーワードを提示し、活用するように促す。話型にはめ込むのではなく話型を紹介し日々の各教科の学習で活用することで、児童の言葉が生きて、安心して自分の考えを発言し、考えを相手に伝えることができる手立てになると考える。たくさんの児童から意見が出て話し合いが活発になることで、よりよい納得できる意見や取組がうまれてねらい達成に大きく近づくと考え。

○話型一覧

<自分の考えを伝えたいとき>

「わたしは、_____と考えました。理由は_____で議題の～～につながるからです。」

<友達の考えに対する自分の考えを伝えたいとき>

「_____がよいと思います。この方法は_____でこうすると、_____になると思うからです。」

「_____は難しいと思います。この方法だと_____なって、_____ことにつながるからです。」

<友達の考えをふまえ、自分の考えが変わったことを伝えたいとき>

「_____だったけど、_____しようと思う。理由は、_____です。」

<本時>

「比べる～まとめる」で話し合いを進める手立て（共通点や相違点を見つけ、合意形成を図り意見をまとめる）

自分の考えを出すことができても、児童はそこから比べる意見を出すことが難しい場合が多い。特に友達の考えに否定的な意見を出すことに抵抗感を示す児童もいる。そこでふれられていない意見があるときは「他の案について意見はないですか」、議題に合った考えが多すぎるときは「合わせられる意見はありますか。」等の方向性を示す言葉を司会カードにまとめておく。話し合いの流れからどの方法で進めるか判断して進めていくことで自然な形で自分の意見が出せて、とまることなく話し合いが進むと考える。

考えの理由や立場を明確にして、児童同士をつなげる手立て（賛成・反対揭示）

誰がどの考えを言ったか、今どんな考えの人がいるか、どの立場かを黒板に掲示する。掲示して明確にすることで、児童の「気になる」「質問したい」「みんなの考えを知りたい」という気持ちを明確に視覚化できると考える。児童にとって関心のある情報を視覚化することで、児童が話し合いの土台に立ち、話し合いやすくなると考える。

<事後>

話し合ったことを実践して達成感を味わい、次時につなげる手立て(振り返りカード)

活動後、議題について振り返りを行う。自分たちの考えた活動でクラスにどんな変化が起きたかを明確にして共有する。こうすることで自分たちの考えでクラスが一つになった変化をより味わうことができ、達成感につながる。また、達成感から次時への意欲やクラスの他の課題を見出す気持ちの変化が生まれると考える。

6. 活動の実際

(1) 事前の活動

日時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
11月2日 2校時	・王中小オリンピックの振り返りをする。	・王中小オリンピックでクラスが一つになってクラス目標に近づいたと気付いた児童を価値付ける。	◎よりよい学級や人間関係を築くために、これまでの取組を振り返っている。 (主体的に取り組む態度) 【プリント】
11月3日 ～	・議題ボックスに思いを入れる。 ・入れた思いを具体的な内容に変化させる。➡提案理由	・自発的に行動することでよりよい時間になることを前時までを想起させ、確認する。 ・「一つになる」を児童が共通認識になって話し合いやすくなるように、全体に問いかけて具体的にする。 (例) ・●●で作戦を考え心を一つにする。 ・協力して○○をやる。 ・みんなで協力して、○○をする。 ・同じことをして、感想を話し合う。	
11月5日 帰りの会	・提案者が議題を提案し、決定する。 「クラスで一つにな	・提案者の提案のもと、学級全員で決定する。	◎学級が一つになるために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。

	る遊びを考えよう。」		(主体的に取り組む態度) 【観察】
11月6日 クラス タイム	・議題に対する自分の考えをプリントに記入する。	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるよう必要に応じて助言する。 ・普段の生活の中(授業、休み時間、当番活動等)の場面で考えるよう声をかける。	◎「みんなの心を一つにしよう」という目的に合った意見を考えて判断し、プリントに書くことができる。 (思考・判断・表現) 【プリント】
11月9日 中休み	・みんなが書いたプリントの「自分の考え」から選定する。 <提案された考え> ・●●で作戦を考え心を一つにする。 ・協力して○○をする。 ・みんなで協力して、○○をする。	・考え選びの視点(どの方法だとみんなが一つになれるか)を意識して選定することを指導する。 ・めあてにより近づいた話合いにするため事前に選定すること、考えが選ばれない可能性があることを伝える。	◎よりよい学級や学校生活をつくるために、進んで提案の選定をしようとしている。 (主体的に取り組む態度) 【提案カード、観察】
11月10日 中休み	・活動計画を作成する。	・提案者の思いや願いを学級全体の共通の問題になるように、提案理由をしっかりと深めるようにする。	◎司会グループの役割やみんなで心を一つにするために話合いの進行の仕方等を理解している。 (知識・技能) 【活動計画、観察】
11月11日 中休み	・みんなの考えを整理する。	・出された意見から話合いの見通しがもてるように助言する。 (柱を明確にする。) 必要に応じて短冊に記入する。	

(2)本時の展開

①ねらい

学校生活をより楽しく豊かなものにするため、友達の考えや思いを感じながら、みんなで心を一つにするための遊びを考えることができるようにする。

②活動計画

児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】
<p>1. はじめの言葉</p> <p>2. 司会グループの紹介</p> <p>3. 議題の確認 「クラスみんなの心が一つになる遊びをしよう」</p> <p>4. 提案理由の確認 「王中小オリンピックでみんなの心が一つになってうれしかった。これからもみんなで心を一つにして、協力したい。」</p> <p>5. 話合いのめあての確認 ①クラスみんなが心を一つになる(協力する)遊びを考えて決めよう。 ②時間内に決められるように協力して話合いを進めよう。</p> <p>6. 決まっていることの確認 「クラス全員が取り組める遊びを設定する。」 「冬休み前まで取り組む内容にする。」 「中・外遊びどちらでも可」</p> <p>7. 話合い 柱①「何を」するか ※出た意見のよい所や気になる所、どの取組が議題につながるか。 柱②「どのように」するか ※めあてに近づくための工夫</p>	<p>・事前にプリントに書いた自分の考え、学級会での個人めあてを確認する時間を確保する。</p> <p>・提案者の想いや願いは、学級全員の問題であることを確認する。</p> <p>・決まっていることは、事前に掲示しておく。</p> <p>・話合いでは、「くらべる」ことから始められるよう短冊に事前に出た意見や柱を前もって明確にしておく。</p> <p>・比べるときは議題に立ち返ることを徹底する。</p> <p>・意見をうまく出せず困っている場合、自分の意思を明確にしつつ自分の考えを発表できるよう、話型を活用するよう声をか</p>	<p>◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】</p> <p>◎司会グループとして司会や記録などの役割を果たして話合いを進めている。 (思考・判断・表現) 【観察】</p> <p>◎友達の考えを認めながら、よりよい解決方法や取組を考えて話合いに参</p>

や取り組み方は何か。 8. 決まったことの確認 9. 振り返り 10. 先生の話 11. おわりの言葉	ける。 ・司会が進行に困ったときは、方向性を示唆する。児童の合意形成を方向付けるようなことはしない。 ・ねらいを達成している児童を価値付ける。	加している。 (思考・判断・表現) 【観察】
-----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

本時の視点

- ①一人一人が自分事として考えて、児童が話し合い活動を進めることができたか。
- ②児童が合意形成を図りながら考えを出したり、反応したりして話し合いに参加することができたか。
- ③板書計画

ふりかえり

決まったこと

● 柱②

● ●

● 柱①

● ●

めあて

①クラスみんなが心を一つにするための遊びを考えて決めよう。

②時間内に決められるように協力して話し合いを進めよう。

第4回 学級会

はじめの言葉

司会グループの紹介

議題「クラスみんなの心を一つにする遊びをしよう」

提案理由

「王中小オリンピックでみんなの心が一つになった。またみんなで心を一つにして、協力したい。」

めあて

(3)事後の活動

日時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿(観点)
11月13日 中休み～	・準備を行う。	・仲間と協力して準備が行えるよう声をかける。	◎楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。(主体

			的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度)
11月20日～	・決まった活動を実践していく。	・取組を実践し、一つになれたことに気付いた児童を価値付ける。	
冬休み前	・取組を振り返る。	・学級会で決めた取組を実践することで、クラスが達成できたことを確認する。	◎よりよい学級や人間関係を築くために、これまでの取組を振り返っている。 (主体的に取り組む態度) 【プリント】